

第2回「寒河江市学校施設整備計画」保護者向け説明会 質疑応答

会場：市民文化会館

日時：令和4年11月9日（水）19時30分から21時00分

参加人数：15名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（学校教育課長）

事務局からお願いがございます。説明会の意図として、多くの方からご意見をいただきたいのでご発言をお願いします。小・中学校の検討案について、いろんな面からご意見をお願いしたいと思います。質問からお受けしたいと思います。質問のある方よろしくをお願いします。

（発言者A）

質問ですが、複式学級について、メリットとして1人1人の学習状況を的確に把握し、きめ細やかな学習指導が行いやすいとありましたが、複式学級の方が学力、成績が良いというデータはありますか。

（教育長）

必ずしも複式学級の方が、いろんな学力検査で良いとか悪いとかということはないと思います。そのときどきといたしますか、平均したときも、例えば100人くらいの平均と7、8人の平均では平均の意味も違ってくると思うので、学力が一概に高いとか低いとかは言えないと思います。

（発言者A）

わかりました。ありがとうございます。

（学校教育課長）

その他、ご意見等ご質問ございませんでしょうか。

（発言者B）

特別支援学級に関してご説明いただいたところですが、県立学校ですと楯岡特別支援学校の分校があるわけですが、ここら辺のすみ分けについては、どのようにお考えでしょうか。障がいの度合いとかで決まってくるのか、保護者の意向で決まるのか、どういう方針で県立学校にお願いするとか決まっているのでしょうか。

(教育長)

原則的には特別支援学校の方が、障がいが多い場合が多いということはありません。特別支援学校の方が、教員も多くおられますので、それだけずっとついていながら対応できるということがあると思います。ただ、一番は保護者の方のお考えといいますか、子どもさんの将来的なことを考えながら、どういった形が一番いいのか、保護者の方と話し合いながら決めていくということです。教育委員会が、あなたはこちらと決めるものではないと思います。今、高松小に特別支援学校寒河江校があるわけですが、今後のことについても、どうしていくかは県と話し合っていきます。現在の状況については、県の方にも話をしているところでございます。

(発言者B)

わかりました。ありがとうございます。もう1点よろしいでしょうか。とある方から聞いた話ですが、特別支援学校に入学させた場合と特別支援学級の場合では、子ども一人あたりにかかる経費の桁が違う。特別支援学校は一人当たり何百万円単位、特別支援学級ですと何十万円単位になるんだよと、ある方から教えていただいたのですが、専門的な教育の厚みの違いかなと思います。先ほどの説明で、特別支援学級で免許をもっている先生も充実していただけたところがあったので、そこはいいことかなと思ったところです。手がかかる子どもたちをどちらに入れても子どもにとって効果的な学習ができるような環境ができればいいなと思ったところです。これは意見でございます。以上です。

(教育長)

ありがとうございます。特別支援学校ですとその子の障がいにあわせて担当する教員がぴったりつきやすいということがあります。特別支援学級ですと6名までは1クラスなので、1対1の場合もありますが、1対6ということもあります。そういった場合に、いろいろなお子さんに対応する面から考えて、市の方でも特別支援の補助員も配置しているところです。

(学校教育課長)

ありがとうございました。先ほどの説明の中での意見でも、中学校1校にしてすごい学校にしてほしいとか、2校にして部活動で切磋琢磨してほしいとかご意見がございましたが、同じような意見でも構いませんので、ご意見等ございませんか。いかがですか。

(発言者C)

市内に勤務している幼稚園教諭です。私の子どもは、寒河江市にはいないので身近なものよりは楽観的に考えてしまうのですが、関係する学区の説明会なので来てみたのですが、そうですね、質問というよりも、はたして私たちが目の前に子どもたちがどういう未来を背負っていくかと考えたときに、歴史といいますか、私の園でも伝統を大事にしつつ、地域性が求めているものを地域ともに活用してもらおうということで、認定こども園になったわけですが、陵南、陵東、

陵西があって、私は市内の中学校に他県から転校してきたので、あまり寒河江市の小学校のことはわかりませんが、陵東には陵東の良さがあって、陵西には陵西の良さあって、成人になると、どこの中学校出身ですかという文化の中で育ってきたので、そういうのがなくなるのはさみしいなと思うと同時に、学区内で分けられるのが嫌だという声もあったのですが、置かれている文化がどのように持続されるのかな、良質な教育を平等に与えるSDGsのなかでいうとそれは保障されると思うのですが、寒河江市の文化でも陵東、陵西、陵南地区は違うので、それを統合して考えるときに、何を大事に寒河江市に根付くような子どもたちを育てられるのかなというように、私たちは寒河江市のことが好きになってもらえるような幼児教育ということが根幹にあるのですが、それを中学校、小学生になったときにどのように持続してもらえるかなというものを、教育的なものだけでなく、幼稚園で関わっている部分を持続してもらいたいという思いがあるのですが、はたして中学校が1校になったときに寒河江市の文化をどのようにして、この子どもたちは大きくなったら戻ってきたい町としてとらえているのかなと漠然と思います。その中の仕組みは、国、県、お金の問題、先生の配置とかいろいろあるでしょうけれども、1つ具体的なことを申し上げると、学校再編整備室の担当の方がごころごころ変わるようなことでは持続的な計画はできないと思います。子育て推進課にお世話になっておりますが、1人の方がずっと支援してくれているということがあって、認定こども園として、バックアップは強いものでした。形として認定こども園として作り上げていったということです。その中で、地域の必要性に応じてそういった幼児教育をしてくださいと言われたので、幼稚園として運営しているわけですが、子どもたちが背負っている背景がいろいろあって、朝の7時から夜の7時まで集団生活の中にいる子と、9時から3時で帰るお子さんでは、生活的な背景が違いますので、先ほどの支援学級とか学級のサポートありますが、家に2時間しかいけない子、3時から帰ってテレビを見て、好きなお菓子を食べて、お母さんと6時になったら食事をする子、30分しか家庭で生活できない子、いろいろな子が寒河江市内でもいるので、そうした子を一括して、はたして見ていけるのかなと専門外ですが漠然と思います。いろんな多角的な支援をしていくところであると、いろんな先生が関わられるので、フリーの先生が増えて、子どもが見えますよというところにおいては統合するのはいいと思いますけども、私はいろいろ転校をしてきましたが、大きい学校でいいことはなかったな。小さい学校ほど目が行き届くことはたしかです。それだけは、大きくなればなるほど不登校は多くなるし、見えない部分も多くなるし、先生方もいろんな色があるので、それを尊重できる学校であればいいのですが、なかなか統一的な縦社会のようになると難しいかなと思いますので、たしかに子どもは少なくなっているのが、難しいなと思いますけど、意見としては、少ないところで子どもたちを見ていくというのが、高松なら高松、寒河江小なら寒河江小の文化を継続しているような小中学校であってほしいなと思います。意見だけですけど。

(教育長)

ありがとうございます。基本的に最初の方にありました寒河江が好きな子ども

もたちを育てたいというのは私たちも同じ気持ちです。それは小学校でも中学校でも同じです。以前よりも地域のことを学ぶ機会は増えているかなと思います。私は中学校におりましたが、中学校では職場体験とか、仕事について学ぶということも含めて、1年生のときは市内のいろんな企業を回らせていただいています。そうすると、子どもたちはびっくりして帰ってくるんですね。寒河江市内の企業もいろんなところで大活躍しているし、世界を相手にお仕事されているところも多いので、すごいなあと感じてきたり、別な学校では神輿の祭典に参加したり、地域を大事にする、地域を好きになるということを大事にしているというところがあります。今のご意見ですと、小規模の方がいいかなと。ただ、いろんな不登校の問題とかクリアできるのであれば、大きなところで切磋琢磨して育っていくのもいいかなというご意見ということではよろしいでしょうか。

(学校教育課長)

ありがとうございました。

(発言者D)

今日お話しをお聞きして、いろんな選択肢のなかでどういう方法を選んでいくかを提示して下さったと思うのですが、一番重要なのは子どものあり方ということは理解できるのですが、この環境の中で話をして子どもたちにとっていい場ができるのかが疑問です。もっと大勢の人を集めて、集まらないんでしょうけど、多くの意見を聞いてほしいと強く思いました。私の中で考えていることにおいては、今提示された選択肢は、選択肢の幅が狭いと感じています。東根の東桜学館の中高一貫校に人気があるのでだろうと考えたときに、学習に対して意欲的な子が今の中学校教育で賄えないと思った保護者が、東桜学館に行かせたいという考えがあるんだと思います。なので、子どもたちを中心として、親も選択肢をとれるように、2校にしても1校にしてもいいんですけど、2校にした場合、なぜ、画一的な中学校を作らなければならないのか疑問ですし、教育に前向きな家庭環境の子には、受験しても学校を選択できる方法なので、この話の中だけでどれがいいだけでなく、もっと前衛的というか、前進できるような選択肢もあるのではないかと感じた次第です。

(教育長)

ありがとうございます。

(学校教育課長)

その他ございませんか。

(発言者E)

子どもが大きな学校に在学しているので、5ページの3番目の小規模校の良さはなんとなく想像がつくのですが、複式学級の良さがよくわかりません。こういった部分が複式学級の良さとしてあげられるのか。課題は何か。また、この意見は現役の保護者から出てきた意見なのではないでしょうか。

(教育長)

複式学級ですと、1年生を含む場合は8名ですが、2、3年生以上の2学年だと16名までの学級編制という制度になっています。少ない人数ですと、それぞれの子どもの進捗や、理解の度合いは見やすいということがあります。また、一人一人が発言する機会も増えます。自分たちで学習を進める場合の子どもたちの中でのリーダー的な役割をするなど、複式ならではの体験もできるという良い点もあると思います。ただ、以前は、授業も知識・理解を中心に学んでいったと思うのですが、これからは、スマホがあればなんでも調べられる時代ですし、知識・理解はもとにはなりますが、そこからいろんな思考力・判断力・表現力を身につけていくことが求められます。いろんな考えや意見を聞いて、そういうこともあるのか、それは面白そうだねとか、多くの人と考えを交流する体験といえますか、そういったことも可能になるには、もう少し多い人数の方がいいのかなという部分もあると思います。複式については、保護者の方も、少人数の中で見てもらえるので、複式でも問題ないとおっしゃる方もいらっしゃいますし、多くの人数の中で意見をたたかわせたり、いろいろな話を聞いたりして磨かれてほしい、育ててほしいと、複式学級よりも大きい集団での学びの方がいいとおっしゃられる方もいらっしゃるという状況です。

(学校教育課長)

ありがとうございます。その他ございますか。

(発言者C)

先ほどのようなご意見の中で学校が選べるのかというご意見があったと思いますが、将来的にはこれが例えば2校になった場合、また小学校でも、どちらの学校に行かせたいというのを選べるというのは、ビジョンの中に寒河江市としてはあるのでしょうか。今ですね、寒河江小学区でも南部小に行きたいと通っている子どもいますし、三泉小学区でも寒河江小に入りますというのも認められているようですが、将来的に教育ビジョンとしてはありますか。それはなくて決められた、決まった地域の学校に通うということでしょうか。2校の場合は、それで2校が切磋琢磨して教育を高めていくビジョンは基本的にはありますか、ないですか。

(教育長)

基本的には、学区を定めますので、その学区の学校になります。いろいろな事情がある場合には、ご相談いただいて、就学先の学校を決めていくということはありません。

(発言者C)

いろいろな事情がなくて、親の観点でこちらの方が特色あるから、こちらの方が地域に根差している学校なのでこちらに行かせたいとか、そういう選択肢は寒河江市では考えていないのか、また、小中一貫校を今から作るということはないと思いますが、そういうものは考えの中にありますか。

(教育長)

小中一貫校については、あり方検討委員会でも、どうだろうかという検討がなされたのですが、児童生徒数の問題もあって、検討委員会では学区を再編しないでということだったので、一貫校にしても人数が減ってしまうので寒河江市にはどうかという答申になったと思います。学区のことについては、例えば、東京のある区では完全に学校を選択制にしていたということもありましたが、今のところ完全な選択制というのは寒河江市では考えていません。

(発言者C)

そうすると統合は、高松・醍醐・白岩で、例えば、三泉と高松が一緒になることはないですね、地域で分けているので。最終的には1校になるようですけども、2校選択の場合には、どちらかに行かなければならないということでしょうね。この統合については、決められているということですよ。資料の4ページの最初ですが、南部と中部の統合はありえないというスタートになりますか。

(教育長)

最初のロードマップですね。これは寒河江、柴橋、中部、南部がありますが、検討を開始するということでして、人口動態や社会情勢の変化によっては、組み合わせが変わるということも検討次第ではあると思います。または、どうしても学校を残すべきでないかというご意見が多いということになれば、そうしたことも検討していくということになるでしょうし、その辺は今後、検討委員会を作って決めていくということになると思います。

(発言者C)

私の役割としては、どうしたらいいかどうかということの目安として参加させていただいたのですが、行ってもどうにもならないという保護者の声があるんですね。聞いてもらえる余地がなかったというのは噂で、噂というのはほんとの噂で、変えることができるということでしょうか。

(教育長)

今、この計画についていろんなご意見を伺っておりますし、説明会を開いているわけですので、様々な面からご意見をいただければと思います。そうしたことも踏まえて、当初の計画を一部変更することも含めて考えるということですよ。また、他の方々におかれましても、こうしたことを考えれば1校案がいいのではないとか、こういう面では2校案がいいのではないかなど、是非、ご意見いただければと思います。

(発言者C)

わかりました。どうもありがとうございます。

(学校教育課長)

その他、ご意見ご質問等ございませんか。

(発言者F)

私の子どもが関わるということで、中学校に目がいってしましますが、その中で1校案、2校案があげられていますが、どちらにせよいろんなご意見の中で、1校案では規模が大きすぎて、いじめや不登校がでてきたりするのではないかと不安な意見がでていますが、どちらにせよ、統合した段階である程度の人数になってくると思うので、このくらいの規模だと、いじめが発生するかしらないは、この規模感だと1校でも2校でも変わらないのかなと思います。ですけども、その中で先生方の配置だったり、対応する人数だったり、1校になってしまうと今の山形で1学年300人以上の学校はないと思います。昔はあるのかもかもしれませんが、その当時を経験されている先生方もどんどん退職されている現状の中で、対応ができるのかなという若干の心配があります。その考え方といいますか、さきほど前衛的なのという話もありましたが、どうしても、最初、統合に関して人数的なところを見るケースが多いのかなと思いますが、違う角度から見る必要があるのかなと思います。自分たちでどの学校に行きたいか選べるという考え方も、これからの社会で必要なのかなと思います。ここ2、3年でジェンダーフリーな制服がでてきてたりとか、そういったことがとりあげられていて、私が学生時代のときと考え方が変わってきているので、これが令和10年に統合しますとなったときに、実際の現場の状況というのは、今の考え方で時代にあったものができあがるのかなと思いますし、もう少し先を見ながら柔軟に、生徒たちが学校を選べるということに関しても、基本的には学区でということがあると思いますが、その他に自分たちで選んで、中学校2校案にするのであれば、行きたい方に行けるような仕組みというのを、特殊ないろんな事情があるだけでなく、ちゃんとした選択肢の中にこういう選び方もありますというのを整備してほしいな、そういう社会になってほしいなと思います。それがあまりにも広がりすぎると收拾がつかなくなるということはあると思いますが、ある程度そういう選択肢というのも多く見ていただけると、子どもたちがのびのびとして学んでいけるような、自分がこの学校で学びたいというような、そういった気持ち的なところをしっかりとサポートしていただけるといいなと、いろんな方の意見聞いて思いました。以上です。

(教育長)

今の選択肢ということについては、どのようなことが可能なのかは、いろいろ検討しないと、まったくフリーでといいますと、ある学年はとて多くなったり、ある学年は少なくなったりということは、いろいろ課題があると思います。どうした形が子どもたちにとっていいのかというところは、これから検討していかなくちゃいけないことだと思います。また、1校になった場合のいじめや不登校を心配されるのは当然のことだと思います。しかし、人数が多ければいじめや不登校が多いかという、実際、今の学校規模でも一概には言えません。教員の見方、指導も大きく関わってくると思います。そうした対応を、しっかりしていかなければならないと思います。かつては大規模校ということで、私が河北中に勤務した時は、960名の生徒がいました。大規模は大規模でいろんな活動がダイナミックに行えますし、そこでいろいろな刺激を受けて成長していく子どもさ

んもいます。一方、大規模の中で、なんとなく自分を発揮しづらいという子もいますし、どのように対応していくかはしっかり見ていかなければならないと思います。ご意見としては、2校もいいけども、1校もそういったことがクリアできればよいし、今の段階ではどちらとも言えないというお考えでしょうか。

(発言者F)

はい。

(教育長)

ありがとうございます。

(学校教育課長)

その他ございませんか。

(発言者B)

2校と1校という話があったのですが、学校とかでいじめが発生して、重大ないじめがあった場合、1校しかない、転校が必要だとなった場合、寒河江市民でいられなくなるということが考えられます。2校ですと逃げるところがあると思うのですが、1校にしてしまうと家族も寒河江市にいられなくなってしまうのではないかなと心配に思うのですが、そのような点はいかがでしょうか。

(教育長)

そうした重大な事態に至らないように対応していかなければならないと思います。どうしても転校しなければならないという状態になった場合には、市内では1校ですと他に転校はできませんので、そうした場合の対応については考えておかなければならないことだと思います。

(発言者B)

ありがとうございます。私は逃げ場があるように2校案の方が賛成です。

(発言者G)

先ほどの逃げ場という話がありましたが、1クラスの学年の場合だと居づらくなってしまうとクラス替えなどの逃げ場がなくなってしまいますし、クラス替えのある学校だと、友達関係も3人から5人がせいぜいになりますが、小さい学校だとそのクラスに居づらくなったり、その友達と仲が悪くなると学校に行きづらくなったりということが考えられますが、ある程度の規模の学校だと、他のコミュニティや他の友達に移ればいや、そちらの友達の中で活躍すればいいやという逃げ場ができるので、ある程度の規模は必要かと思います。

先ほど、どうしても転校ということが必要になった場合というご意見がありました。確かにそうだなと思って話をお伺いしました。先ほどから選択肢ともありましたが、そもそも大規模校に対して不安を感じる保護者もいらっしゃるだろうと思うので、そうした不安に思う保護者の方への対処という意味で、

もう一つ多少のんびりとした環境での学びができる場があってもいいのかなと思っています。ただ、個人的な意見としては、これからの人口減少を考えると、基本は1校案なのかなと思っています。ただ、大規模な人数が合わない子への対応策も考えておかなければならないと思いました。以上です。

(教育長)

基本的には1校案がよいが、いろんな事態に対処する必要があるという意見ということよろしいですか。ありがとうございます。どちらかが絶対いいということはないと思います。それぞれの良さがあるし、それぞれ課題があるので、よさを生かして、課題に適切に対処していくことが教員、学校に求められるということだと思います。ありがとうございます。

(学校教育課長)

ありがとうございます。その他ございますか。予定時間になりましたので質疑応答を終了いたします。